

## 事例：No. 4

### 【安定的な事業量による高性能林業機械の高稼働率の確保】

1. 林業事業体等名称 有限会社 はなたぞうざいぶ 花田造材部 (秋田県北秋田市)

#### 2. 林業事業体等の概要

①年間素材生産量 24,800m<sup>3</sup> (うち 間伐の占める割合 70%)

②生産する主な樹種 スギ

③素材生産に関わる作業員数 19名 (1セット5名×3セット)

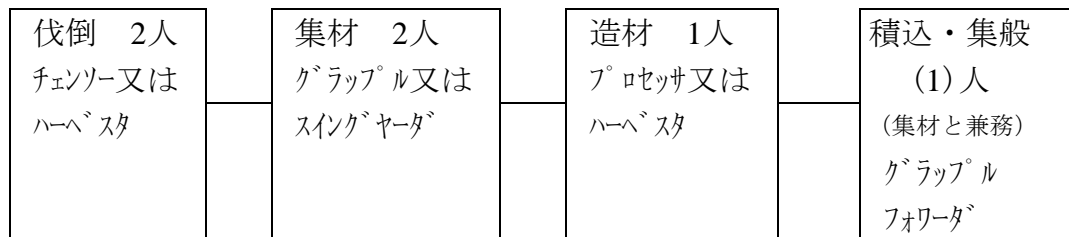
※現場条件を考慮し、補助員4名を各現場に配置

#### 3. 取組の特長

- ・集約化施業に積極的に取り組んでおり、1事業箇所20ha以上の団地を確保し素材生産量を3000m<sup>3</sup>以上にすることにより、高性能林業機械の稼働率向上につなげている。
- ・新規雇用に積極的に取り組んでおり、1セットの作業員は、ベテランと若手をバランス良く配置している。(H21：8人採用)
- ・1事業箇所の工程を前期・中期・後期で、定期的に進捗状況をチェックし、遅延工程の原因を分析し、早期の工程改善による生産性の向上を図っている。

#### 4. 具体的な内容

##### ① 作業システム (標準)



作業システムは、現場に配置された機械をフル稼働させるよう柔軟に対応している。例えば、グラップル3台・プロセッサ1台・フォワーダ1台の現場では、グラップルとプロセッサをフル稼働させるため、集材・造材主体の作業システムを採用している。このため、伐倒は集材工程の生産性に合わせるため2人体制で先行伐倒を行っている。

##### ② 路網整備

大ロットの事業箇所(20ha程度)を確保することにより、一定の広がりのある事業区域で、専門のベテラン作業員がバックホウを使用し適正な路網配置(目標70m/ha)を実施している。

特に、山を痛めないために土砂の移動を極力避ける工夫をしている。

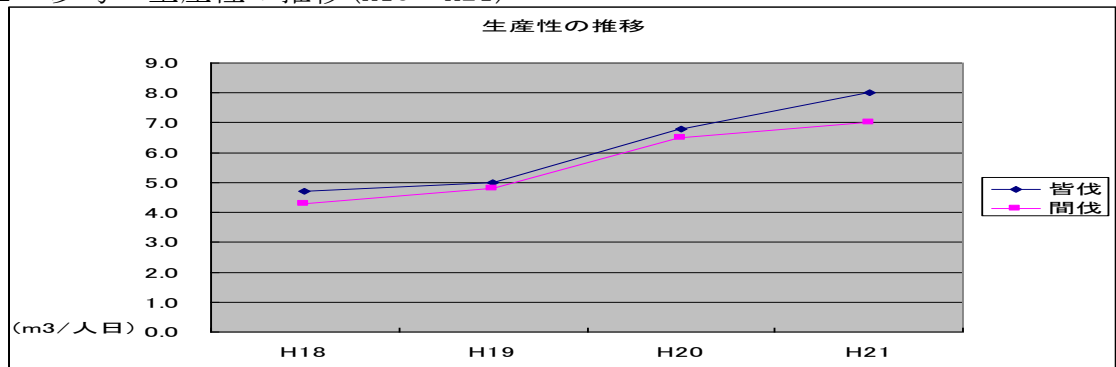
##### ③ 導入機械

スイングヤダ1台、ハーベスタ2台、グラップル6台、プロセッサ2台  
フォワーダ5台

## 5. 今後の取組等

- ・今後の取組目標としては、機械と人のバランスを考慮すること、重点課題は① 機械メンテナンス費用軽減、② 若手の技術習得と経験をあげている。
- ・生産コストに占める高性能林業機械メンテナンス費用の割合が大きくなってきているため、若手技術者にメンテナンス技術を習得させ、自力でのメンテナンスを実施することにより、メンテナンス費用の軽減を図っていく。
- ・若手人材を緑の雇用やトライアル雇用で積極的に採用し、外部の技術研修により、早期に現場技術の習得を図っていく。
- ・ある現場の責任者は、「いくら機械が高性能であっても、動かすのは人間、生産性を上げるためには、機械操作をする者がいかに現場条件に対応した効率的な作業をするかが鍵」と若手技術者の現場経験の重要性を話していた。

### ■ 参考 生産性の推移 (H18～H21)



	単位:m3/人 日			
	H18	H19	H20	H21
皆伐	4.7	5.0	6.8	8.0
間伐	4.3	4.8	6.5	7.0

H14年度から高性能林業機械の導入促進と若手技術者の機械研修実施等により生産性が着実に向上している。

### ■ 参考 機械稼働状況等



集材用(ウインチ付グラブ)



作業準備用バックホウ(ウインチ付)

※ヘッドをザウルスロボに交換し集材作業



表土層保防止のための枝処理状況

#### 【報告者】

秋田県農林水産部林業木材産業課  
副主幹 泉山 吉明